

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300013		
法人名	社会福祉法人 六親福祉会		
事業所名	グループホーム 牛津あしはらの園		
所在地	佐賀県小城市牛津町牛津80番地1		
自己評価作成日	令和3年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年10月12日	外部評価確定日	令和3年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・介護理念に沿って、優しく笑顔で接し、ご利用者様個々に合った生活の支援が出来るように心掛けている。 ・協力医療機関との24時間連携により、ご家族様が安心して頂けるように、こまかな状態報告を行っている。又代表者が医師である為、急変や事故発生時の速やかな対応を行っている。 ・地域に根ざした施設になるように、地域との関わりを持つようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人母体が病院であることは、家族にとっても健康面や医療面での安心へと繋がっている。毎日の訪問診療や24時間体制も心強い。また、日々の記録用にタブレット端末が導入されており、記入時間の短縮は利用者に関わる時間増へ期待できる。気付いた事や質問等が自由に発言できるのは、職員の声に耳を傾けている管理者の度量でもあり、ぶれない軸は職員の自己啓発を生んでいる。近くに法人施設(特養)があることで緊急時には避難場所となり、普段には大型洗濯機・乾燥機を使って大物洗いも出来るという利点がある。</p>
--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、市職員・包括支援センター職員・地域住民を委員として、情報交換を行っている。	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、市職員・包括支援センター職員・地域住民を委員として、情報交換を行っている。	自己評価では、「運営推進会議を通して地域との繋がりや深まりが大いに増えている」と回答している。行政側、地区役員、また家族代表の参加もあり、所要時間は概ね30分を目途としているが、延びることも多い。事業所からの報告に終始することなく、双方向な意見交換の場となっているのは、メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面からも窺える。過ごしやすい季節を迎え、朝夕の散歩を勧められたり、マッサージチェアを譲り受けたりと地域の理解と支援を得る機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小城市福祉部高齢障がい支援課高齢者支援係長に運営推進会議の委員をお願いし、小城市との連携を密にしている。	小城市福祉部高齢障がい支援課高齢者支援係長に運営推進会議の委員をお願いし、小城市との連携を密にしている。	運営推進会議のメンバーでもあり顔なじみである。相談事は言い易く、電話での問い合わせや、内容によっては直接出向くこともある。事業所は大きな法人に属し、内部で解決できるだけの人材やスキルもあるが、行政側との関係も大切にしている。実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。芦刈本部(特養)での職員全体会議やグループホーム・ミーティング時に勉強会を行っている。	身体拘束は行っていない。芦刈本部(特養)での職員全体会議やグループホーム・ミーティング時に勉強会を行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害を理解しており、現在その事例はない。玄関に施錠はなく、センサーはあるものの、職員が目配りや人数を数える習慣もあって、利用者の自由な暮らしや安全が保たれている。仮に外へ向かう利用者がいても行動を抑えることはない。納得するまで一緒に歩く事を基本としている。また、職員に不適切なケアが見られた場合はすぐにその場で注意する事とし、全体の事として問題提起するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時、虐待防止について職員へ話をしている。(内部研修)	ミーティング時、虐待防止について職員へ話をしている。(内部研修)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修に出席し、権利擁護について学び、内部研修を行っている。	認知症実践者研修に出席し、権利擁護について学び、内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書及び、パンフレット・利用料金表を用い十分に説明を行っている。	契約書・重要事項説明書及び、パンフレット・利用料金表を用い十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族面会時に要望を伺ったり、ご利用者の近況報告を行っている。コロナ禍の為、面会は窓越しにて行い、電話にて近況報告を密に行っている。	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族面会時に要望を伺ったり、ご利用者の近況報告を行っている。コロナ禍の為、面会は窓越しにて行い、電話にて近況報告を密に行っている。	以前は家族の来所も多かった。コロナ禍では面会の規制もあり、ガラス越しの対面を余儀なくされている。面会時間も限られ、家族とのコミュニケーションも取り難いのが現状である。毎月の利用料請求時にはホーム便りも同封されるが本部からの一括送付であり、事業所から個別に近況を添える事は難しい。そのため、月に一度は近況報告を兼ねて電話連絡を行い、想いの把握にも努めている。意見が出されれば前向きに活かす姿勢もある。高齢化は家族にも例外ではなく、体調などを気遣うこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回特養などと全体会議を、毎月1回グループホーム職員でミーティングを行い、意見交換の場としている。	2ヶ月に1回特養などと全体会議を、毎月1回グループホーム職員でミーティングを行い、意見交換の場としている。	毎月のミーティングは2ユニット合同で、夕方から約2時間を要し、休みの職員も参加している。カンファレンスの他に勉強会(年間計画あり)も組み込まれ、意見は活発に出されている。管理者は、日頃から現場の声に耳を傾けているが、会議で取り上げてほしい事があれば事前に申し出ておくこともできる。また、定時での帰宅を促し、勤務の希望には極力沿いながら働きやすい職場であるよう配慮も窺える。法人上席との交渉は増えるが、管理者としての想いや職員の声はきちんと届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事考課を行っている。また、年2回、正規職員への昇進試験を行っている。希望があれば上司との面接を直ちに行って、納得して勤務している。	定期的な人事考課を行っている。また、年2回、正規職員への昇進試験を行っている。希望があれば上司との面接を直ちに行って、納得して勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3月に新任職員研修を行っている。毎月ミーティング後に研修を行っている。(研修計画作成)	3月に新任職員研修を行っている。毎月ミーティング後に研修を行っている。(研修計画作成)		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小城市高齢者安心ネットワークの一環として南部地区の介護保険サービス事業所等の多職種との連携を行っている。	小城市高齢者安心ネットワークの一環として南部地区の介護保険サービス事業所等の多職種との連携を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご利用者の状態把握を行っており、職員にご利用者の望む生活像や対応の仕方を周知徹底している。	入所前に必ずご利用者の状態把握を行っており、職員にご利用者の望む生活像や対応の仕方を周知徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の契約時や、ケアプランの更新時に聞き取りを行っている。また、ご家族様の面会時や電話にて近況報告を行っている。	入所時の契約時や、ケアプランの更新時に聞き取りを行っている。また、ご家族様の面会時や電話にて近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時や入所前の状態把握の際に対応している。	入所申込時や入所前の状態把握の際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご利用者ができる事を探し、洗濯物たたみ等をほぼ毎日して頂いている。またレクリエーション時のおやつ作りを月数回予定し、職員と共に作って頂いている。	日常生活の中でご利用者ができる事を探し、洗濯物たたみ等をほぼ毎日して頂いている。またレクリエーション時のおやつ作りを月数回予定し、職員と共に作って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時にグループホームとはどういう施設なのかをご家族に説明し、利用者に自分ではして頂くようにしている。また、施設・職員で対応できない場合等は、ご家族に連絡して協力をお願いしている。	契約時にグループホームとはどういう施設なのかをご家族に説明し、利用者に自分ではして頂くようにしている。また、施設・職員で対応できない場合等は、ご家族に連絡して協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族連絡は適宜行っており、面会等は窓越しにて行っている。	家族連絡は適宜行っており、面会等は窓越しにて行っている。	入居までの人間関係を把握するためには、本人や家族、担当のケアマネジャーはもちろん、利用していたサービス事業所やケースによっては病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が組まれている。電話の取り次ぎはいつでも可能で、年賀状や手紙の返事を手伝うこともある。コロナ禍以前は盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参り、法事への出席もあったが、現在は自粛している。毎月のホーム便りは写真等で様子が分かるため、キーパーソン以外の家族にも届けられている。コロナ禍だからこそ、関係が希薄にならないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席順等に配慮し、話の合う方同士を近くの席にしている。又1日の中でも席を替え、一人一人が孤立しないように考えている。	ホールでの席順等に配慮し、話の合う方同士を近くの席にしている。又1日の中でも席を替え、一人一人が孤立しないように考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、入院中の病院に行き、本人様や家族様の相談や支援に努めている。また、退院後、再入所したいと相談がある場合、利用申し込みを再度行って頂いている。	入院時には、入院中の病院に行き、本人様や家族様の相談や支援に努めている。また、退院後、再入所したいと相談がある場合、利用申し込みを再度行って頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス契約書(1)や基本情報に本人の意向を書くようにしているが、補足として、ご家族の意見も頂いている。	サービス契約書(1)や基本情報に本人の意向を書くようにしているが、補足として、ご家族の意見も頂いている。	利用者の想いは日頃のケアの中で同じ時間を共有しながら汲み取っている。隣に座って背中を摩りながら、また、お気に入りの職員を見つけて話してくれる利用者もある。入浴中などリラックスしている時には特に、想いが聞けることが多い。聞き取った事は口頭やミーティング時に伝え合い、共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については、ご家族や本人から聞き取り、基本情報に記載するようにしている。	生活歴については、ご家族や本人から聞き取り、基本情報に記載するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより心身状態・有する能力の把握に努めている。1日の過ごし方については基本情報の中に記載するようにしている。	アセスメントにより心身状態・有する能力の把握に努めている。1日の過ごし方については基本情報の中に記載するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員ミーティングを行い、意見交換の場としている。また、サービス計画書の更新時にサービス担当者会議を行い、議事録を残している。	毎月1回職員ミーティングを行い、意見交換の場としている。また、サービス計画書の更新時にサービス担当者会議を行い、議事録を残している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない時期は毎月とし、その後は6か月毎の見直しを行っている。利用者毎に担当職員を決めてはいるが全員でカバーしている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは現状維持を望む声が多い。ともすれば残存能力は簡単に低下してしまうのが現実である。一日の流れの中では体調が変化することもあるが、出来る事を把握しながら支援しているため、難しくなった時は気付きも早い。状態・問題・解決すべき課題等々の項目でひとりひとりに向き合っている。更に、ケアマネージャーによるモニタリングも毎月行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記載するよう、職員の目につきやすい所に計画書を置いている。	日々の記録を記載するよう、職員の目につきやすい所に計画書を置いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分の事を心配されたり、以前デイサービスやショートステイの利用をされていたため、「帰らないといけないの？」と問われる事が多い。声掛けにて対応し、またご家族に相談して面会に来て頂くようにしている。	自分の事を心配されたり、以前デイサービスやショートステイの利用をされていたため、「帰らないといけないの？」と問われる事が多い。声掛けにて対応し、またご家族に相談して面会に来て頂くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で地域との交流を増やしている。地域の敬老会等積極的に参加するように努めていたが、コロナ渦で最近では出席できていない。	運営推進会議の中で地域との交流を増やしている。地域の敬老会等積極的に参加するように努めていたが、コロナ渦で最近では出席できていない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	毎日、協力病院より往診に來ら れ、また往診の為の同意書を医 師よりご家族に説明されてある。 必要時には受診や往診の支援を 行っている。又24時間連携により 夜間も受・往診をして頂いている。	毎日、協力病院より往診に來ら れ、また往診の為の同意書を医 師よりご家族に説明されてある。 必要時には受診や往診の支援を 行っている。又24時間連携により 夜間も受・往診をして頂いている。	元々、協力医の患者だった方や、入居後 に説明を受け納得して変更を希望した方 など様々ではあるが、現在は全員が協力 医をかかりつけとしてしている。毎日、医師 (協力医)が訪れているのも心強い。診療 科目によっては病院を探すこともあるが、 まず本人や家族に希望先を尋ねている。 受診に向かう際は職員が同行し、その結 果は当日中に家族へ電話連絡している。 当外部評価のアンケートでは「健康面や 医療面、安全面で心配な点はない」と答 えた家族が殆どである。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	看護師を配置しており、医療上の 管理を行っている。又管理者が看 護師の資格があるため看護、介 護職員と情報の交換は早期にで きている。	看護師を配置しており、医療上の 管理を行っている。又管理者が看 護師の資格があるため看護、介 護職員と情報の交換は早期にで きている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	入所時に重度化した場合の指針 について、書面で説明し同意書を 頂き、協力医院関係者との情報や 相談を密にしている。	入所時に重度化した場合の指針 について、書面で説明し同意書を 頂き、協力医院関係者との情報や 相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、家族等と話し合 い重度化した場合について、書面で 説明し、同意を頂くようにしてい る。	入所時に本人、家族等と話し合 い重度化した場合について、書面で 説明し、同意を頂くようにしてい る。	入居契約時に指針を示し、その中で事業 所では看取りを行わないこと、重度化し た場合の選択肢について等々を丁寧に 説明している。出来る限り事業所で過 ごしたいと願う家族は多く、容態の変化に 伴い話し合いは何度でも重ねながら、安 心して納得した最期を迎えられるよう支 援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練 を定期的に行い、実践力を身に付けてい る	GH会議の中で応急手当や初期 対応について勉強会を行い、救急 対応マニュアルを作成し、急変時 には協力病院にすぐ連絡するよ うにしている。	GH会議の中で応急手当や初期 対応について勉強会を行い、救急 対応マニュアルを作成し、急変時 には協力病院にすぐ連絡するよ うにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網を各職員に配布している。また、消防計画書に基づき地震・風水害時も含め、年2回避難訓練を実行している。	連絡網を各職員に配布している。また、消防計画書に基づき地震・風水害時も含め、年2回避難訓練を実行している。	年2回、消防機器業者の協力を得ながら自然災害も想定した訓練を行っている。時間帯は昼間に実施し、夜間の避難等は想定のみである。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。居室から退室済の確認は速やかな人数把握とし、家具等の配置にドアを塞ぐような懸念はない。避難場所は近くの法人施設(特別養護老人ホーム)と定め、家族にも周知しており、水や非常食等もそこに備蓄されている。前回の外部評価後「近隣住民の協力を得ていない」という反省から、区長などの地区役員や近所には声掛けをし、参加協力をお願いしている。今後は緊急連絡網への登録を検討している。訓練からみえた課題や反省は記録に残し、速やかに改善され、ミーティング等で全員に周知されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	良くない言葉かけをすることも時にある為、直接管理者から注意したり、職員同士でミーティング時に話し合い、注意するようにしている。	良くない言葉かけをすることも時にある為、直接管理者から注意したり、職員同士でミーティング時に話し合い、注意するようにしている。	トイレや入浴の介助は最も配慮が必要な場面である。入居して間もない頃は同性によるケアを心掛け、ドアはきちんと閉める事、見え難い立ち位置でのケア、またバスタオルで隠すなど、自分がされて嫌なことはしないという基本が窺える。接遇の研修もある。ミーティングで注意喚起することもあるが、他の職員が経験したことはヒントであり対処法にもなっている。また、個人情報への取り扱いに対する意識は高く、業務上のやり取りではあっても声の大きさには注意を払っている。更に、ホーム便り等への掲載や所内掲示物、居室の名札に至るまで入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択等を利用者にして頂くようにしている。また、サービス計画書の更新の際に意向を確認するようにしている。	飲みたい飲み物の選択等を利用者にして頂くようにしている。また、サービス計画書の更新の際に意向を確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課計画をそれぞれ作成しており、希望に添うようにしている。	日課計画をそれぞれ作成しており、希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに、ご家族に衣類の入れ替えを依頼している。また、誕生日等のプレゼントに希望の品を提供している。	季節ごとに、ご家族に衣類の入れ替えを依頼している。また、誕生日等のプレゼントに希望の品を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりやエプロンの準備はして頂いている。食事の準備はほとんど一緒にはできていないが、メニューを見ながら料理の好みについて聞いている。又、片付けを手伝ってもらっている。	おしぼりやエプロンの準備はして頂いている。食事の準備はほとんど一緒にはできていないが、メニューを見ながら料理の好みについて聞いている。又、片付けを手伝ってもらっている。	献立は法人の管理栄養士が作り、食材は一括購入されたものが届き調理されている。各法人施設が参加する毎月の給食会議では献立に希望を出すことも出来る。酢の効果を知る代表者の想いもあり、酢の物や酢和えは頻繁に提供され、対面式のキッチンからは音や匂いがして食事時を知らせている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしている。前回の当外部評価後に「準備や片付けへの参加と、職員も一緒に食事をする」と目標を立てていたが、歳を重ねる毎に身体能力の低下は否めず、出来る事をお願いしている。また同じテーブルで職員が弁当を開けるとそれによるトラブルもあり、現在は見守りや声掛け、介助等で同席している。誕生日は同月をまとめて祝い、プレゼントや手作りケーキも用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々のバイタルチェックに加え、月1回の体重測定を行い、協力病院の医師に報告している。また、栄養スクリーニングを行い、介護支援専門員と情報を共有している。	日々のバイタルチェックに加え、月1回の体重測定を行い、協力病院の医師に報告している。また、栄養スクリーニングを行い、介護支援専門員と情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、週3回の義歯洗浄を行っている。歯科往診もご家族と相談し行っている。1人スポンジブラシを使用している人がいる。	毎食後の口腔ケアと、週3回の義歯洗浄を行っている。歯科往診もご家族と相談し行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月ミーティング時に個人の排泄について話し合っている。自立支援に向けた支援を行っている。	毎月ミーティング時に個人の排泄について話し合っている。自立支援に向けた支援を行っている。	排泄に関して自立した利用者もあるが、任せたままでなく、さりげない見守りを行っている。排泄後の内容はトイレ内で尋ねるなど配慮も窺える。また、チェック表があることで頻度や間隔、体調などを推し量り支援に繋げている。入居後のケアによりオムツ・パット類の使用枚数が減ったケースもあり、自己負担の軽減にもなっている。トイレ内の設備では手摺りはもちろん、ひじ掛けや背もたれもあり、体位の保持や自立への補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方や水分摂取量の少ない方については、早めに牛乳など飲み物の種類を変えたり、量を増やして対応している。夏場は牛乳寒天やゼリーを提供している。	便秘の方や水分摂取量の少ない方については、早めに牛乳など飲み物の種類を変えたり、量を増やして対応している。夏場は牛乳寒天やゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	あらかじめ曜日・時間帯を決めており、個々に応じた入浴支援はできていないが、強い要望がある場合は対応するようにしている。	あらかじめ曜日・時間帯を決めており、個々に応じた入浴支援はできていないが、強い要望がある場合は対応するようにしている。	週2回を目安に、多くは午前中の中の入浴である。自己評価では「個々に応じた入浴支援はできていない」と正直に記しながらも、現状で出来る限りの支援を行っている。ひとりずつ寛いでもらう中で想いが聞けることもある。拒む方には職員のテクニクで対応し、入浴日以外でも下着肌着の交換を行い、清潔保持に努めている。滑り止めマットやシャワーチェアを備え、また浴槽の縁、特に角が広がっていることでバスボードのように座りながら湯船の方へ体を向けることも出来る。寒い季節には脱衣場から暖気を送りヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、羞恥心にも配慮しながら見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中きつそうにされていたり、居 眠りをされている方には、ソファ ーやベッドに案内したりして1～ 2時間ほど休んで頂いている。ま た使い慣れた枕や毛布等を持参 して頂いている。	日中きつそうにされていたり、居 眠りをされている方には、ソファ ーやベッドに案内したりして1～ 2時間ほど休んで頂いている。ま た使い慣れた枕や毛布等を持参 して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	利用者様それぞれが服用されて いる薬の一覧表を作成しており、 随時確認できるようにしている。 服薬管理表を作成し記載してい る。	利用者様それぞれが服用されて いる薬の一覧表を作成しており、 随時確認できるようにしている。 服薬管理表を作成し記載してい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している	入所時に、ご家族へご利用者の 嗜好の確認を行い、手作業をして 頂くようにしている。	入所時に、ご家族へご利用者の 嗜好の確認を行い、手作業をして 頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している	バスハイクを季節ごとに計画し、 四季を感じて頂くように支援を行 っている。又自宅に帰りたいと希 望がある方については、ご家族様 の理解と、そのご利用者の状態 を勘案し外出支援を行っていたが、 昨年よりコロナ禍にてご家族との 外出は控えて頂いている。	バスハイクを季節ごとに計画し、 四季を感じて頂くように支援を行 っている。又自宅に帰りたいと希 望がある方については、ご家族様 の理解と、そのご利用者の状態 を勘案し外出支援を行っていたが、 昨年よりコロナ禍にてご家族との 外出は控えて頂いている。	本人から外出の希望が聞かれるこ とはないが、話題を振れば興味を 示してくれることはある。バスハ イクでは法人の車両を借り受け、 無理強いはいしないが、出来るだ けみんなで出掛けるようにしてい る。コロナ禍では控えることばか りだが、行き先の人出をみなが ら降車の判断をしつつ楽しんだ日 もある。事業所では、外気に触 れ日差しを浴びることは五感の刺 激にもなると承知している。全く 外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1)	自己評価／ユニットB(第2)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている方はおられないが、お一人は現金を預かり、管理者が買い物に行っている。領収書をご家族へ郵送している。	現金を所持されている方はおられないが、お一人は現金を預かり、管理者が買い物に行っている。領収書をご家族へ郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者に手紙がくると、それに対して返送する支援は行っている。又、許可を得て職員も読ませて頂き、喜びを倍增されている。毎年、年賀状はかける方は書いて頂き、書けない方は代筆している。	利用者に手紙がくると、それに対して返送する支援は行っている。又、許可を得て職員も読ませて頂き、喜びを倍增されている。毎年、年賀状はかける方は書いて頂き、書けない方は代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に誕生会等の行事の写真を掲示し、来客やご家族が自由に見て楽しんで頂くようにしている。また、居室には以前から使われていた家具等を持ち込んで頂くようにしている。	廊下に誕生会等の行事の写真を掲示し、来客やご家族が自由に見て楽しんで頂くようにしている。また、居室には以前から使われていた家具等を持ち込んで頂くようにしている。	元はグループホームとデイサービス事業所が併設されていた建物だが、現在は改造され2ユニットのグループホームとして運営されている。ユニット間には事務所や小庭があり、行き来もたやすく、利用者の動線上に行動を妨げるものもない。リビングは天井が高く、高窓からの採光もあり、明るく開放的な雰囲気である。すぐ近くに交通量の多い通りはあるが、騒音は殆ど気にならず静かである。外を眺めるサッシ戸脇にはソファが置かれ、現在はガラス越しの面会の場所でもある。時間を決めた換気は居室も同様で、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。法人の基本方針に6S(整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法)があり、清掃・清潔は特に徹底され、嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方を同じ席にしたり、ホールや廊下の空間にソファを置き一人で好きな場所に掛けて頂くようにしている。	気の合う方を同じ席にしたり、ホールや廊下の空間にソファを置き一人で好きな場所に掛けて頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(第1) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時、ご家族に説明し、使い慣 れた家具等を持ち込んで頂くよう にしている。	入所時、ご家族に説明し、使い慣 れた家具等を持ち込んで頂くよう にしている。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険 物以外に制限はない。使い慣れたもの を置き、居心地良く暮らしてもらえるよう支 援している。配置や飾り方は本人と話し ながら決めている。壁に貼ることは出来 ないが、写真立てを使い家族を傍に置く 利用者もある。季節の変わり目には家族 に連絡し、衣類や寝具類の入れ替えをお 願している。天気の良い日にはその寝 具を干す手間も惜しまない。家庭と同じ である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	トイレの場所等が分かりやすいよ うに、大きい字で場所を表示した り、場所を覚えてもらうように声掛 けを行っている。	トイレの場所等が分かりやすいよ うに、大きい字で場所を表示した り、場所を覚えてもらうように声掛 けを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない